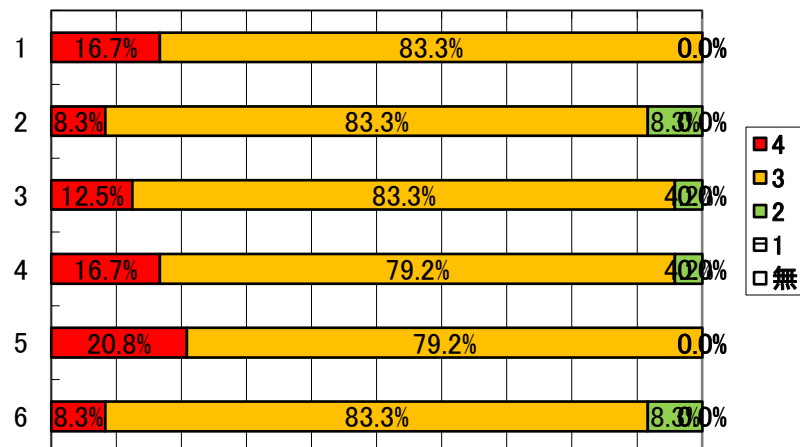


教育目標

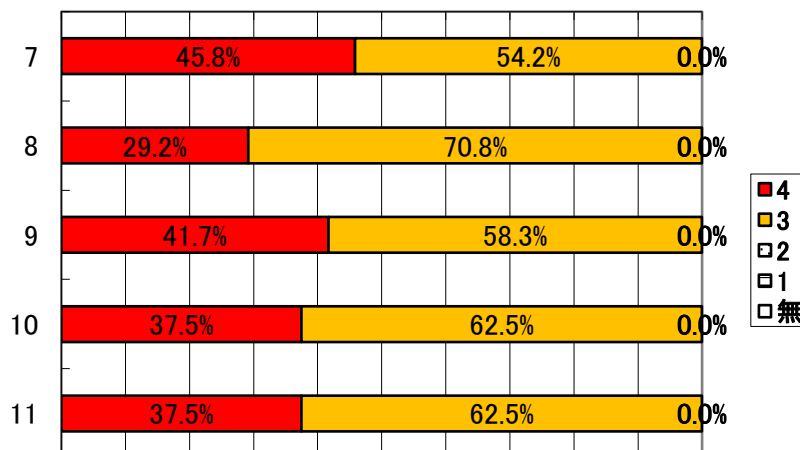
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



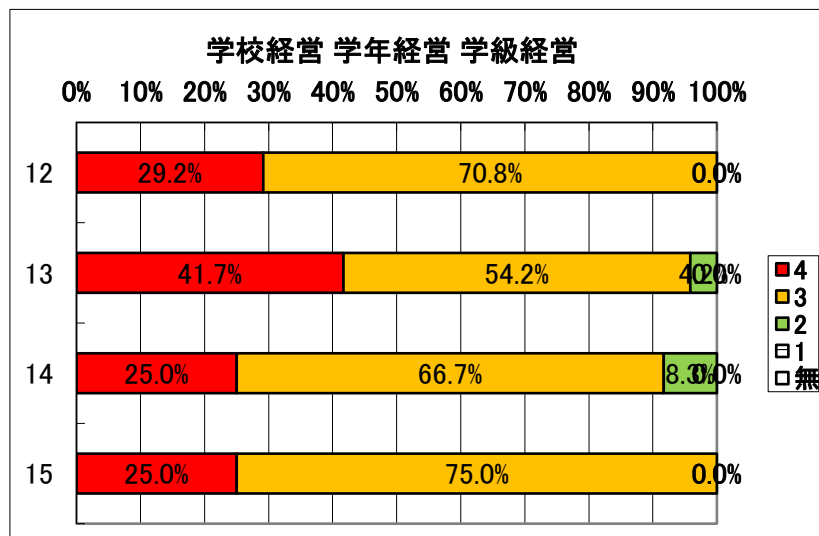
No.	評価項目
1	「人間性豊かでたくましい子どもの育成」に向かって教育活動をしている。
2	「すすんで学習する子」の育成に向けて、自ら進んで学習する子が育っている。
3	「思いやりのある子」の育成に向けて、思いやりのある子が育っている。
4	「体をきたえる子」の育成に向けて、体を鍛えようとする子が育っている。
5	「かかわり合う子」の育成に向けて、人と関わり合おうとする子が育っている。
6	学校教育目標の具現化が図られ、4月当初より児童の変容が見られる。
「教育目標」の項目に関しては、高評価(すべて肯定評価90%以上)であった。学校教育目標【No.1:人間性豊かでたくましい子の育成に向けての教育活動】の肯定評価が100%だったことをはじめ、重点とした【No.5:かかわり合う子の育成】において一番評価が高いことは、今年度の教育活動が組織的に、また意図的に関わり合う機会や体験活動を積極的に取り入れたことの表れであると考え。「すすんで学習する子」を育てるためには、自ら課題を見つけ主体的・対話的に問題解決しようとする力の育成が欠かせない。今後は、日々の授業改善に努め、学習意欲を高める工夫をしていきたい。	

重点事項

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

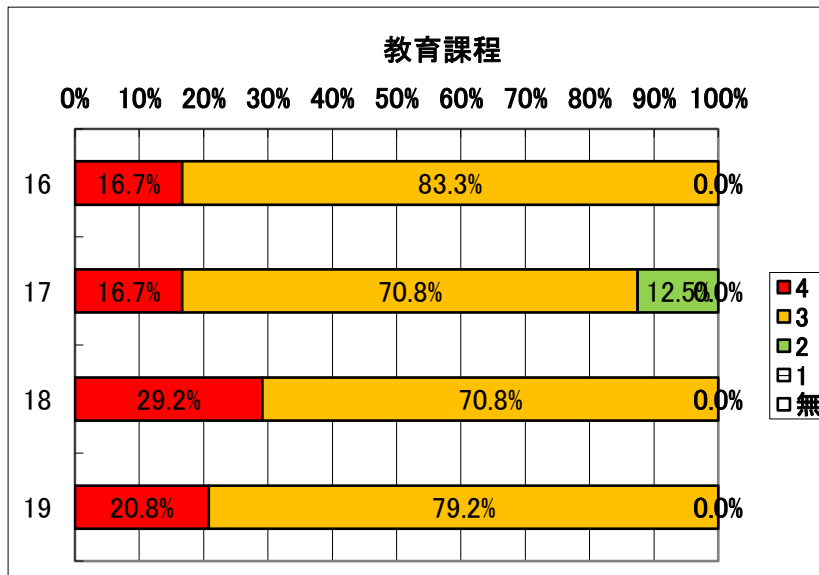


No.	評価項目
7	いじめの早期発見・早期解決に努めている。
8	適切な言葉遣い等、言語環境の整備に努めている。
9	学習進度や宿題について、学年内で調整している。
10	けがの防止に努めている。
11	交通安全の徹底に努めている。
「重点事項」の項目に関しては、すべてが肯定評価100%であった。5つの項目のうち、【No.7:いじめの早期発見・早期解決に努めた】の項目が特に高い評価となっていること(これに関しては、保護者、児童評価も共に高い評価となっている。)は、担任をはじめ全職員がいじめについてのアンテナを高く張り、問題解決のために迅速な対応を心がけた結果である。児童が安心安全な学校生活が送れるように、学校教育目標の具現化を図る重点事項については次年度も引き続き全職員で指導にあたり、特に、「適切な言葉遣い・言語環境整備」についてはさらに意識を高めたい。	



No.	評 価 項 目
12	各自が校務分掌の内容を理解し、意欲的・計画的に取り組んでいる。
13	会議の結果が教育活動や学校運営に生かされている。
14	学年や学級の目標の具現化が図られ、4月当初より児童の変容が見られる。
15	児童のコミュニケーション能力を高めるような取り組みをしている。

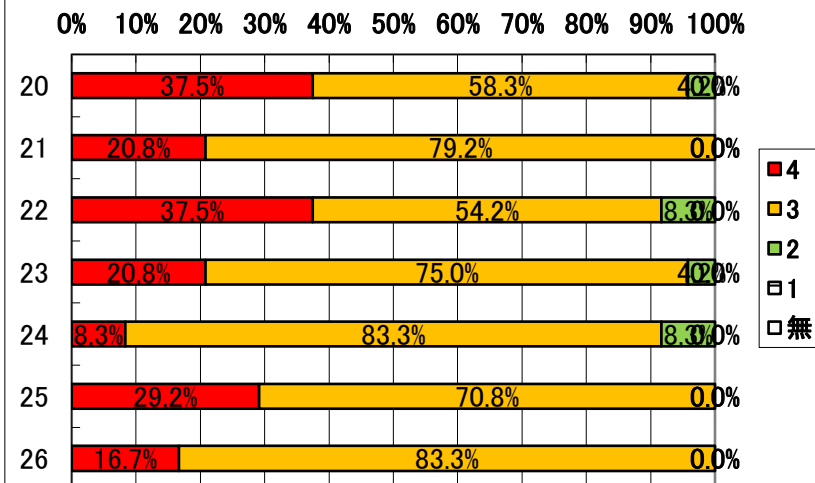
「学校経営 学年経営 学級経営」の項目に関しては、高評価(すべて肯定90%以上)であった。特に、【No.13:会議の結果が教育活動や学校運営に生かされている】が高い評価だったことは、会議のスリム化とともに検討事項を絞った話し合いがなされた結果と考える。一人一人が校務分掌の役割を意識しながら創意工夫して取り組むことが、学校組織の活性化には欠かせない。風通しのよい職場環境づくりのためにも、互いのリスペクトと一人で抱え込ませない協力・支援体制の空気醸成を大切にしていきたい。



No.	評 価 項 目
16	学習指導要領の趣旨を生かし、計画的な教育課程を進めている。
17	今年度の年間行事・月行事はバランス良く計画されている。
18	各教科・道徳・特別活動・総合的な学習等の時間配当は適切である。
19	日課時刻表は、教育課程全般を考慮し、適切に進めている。

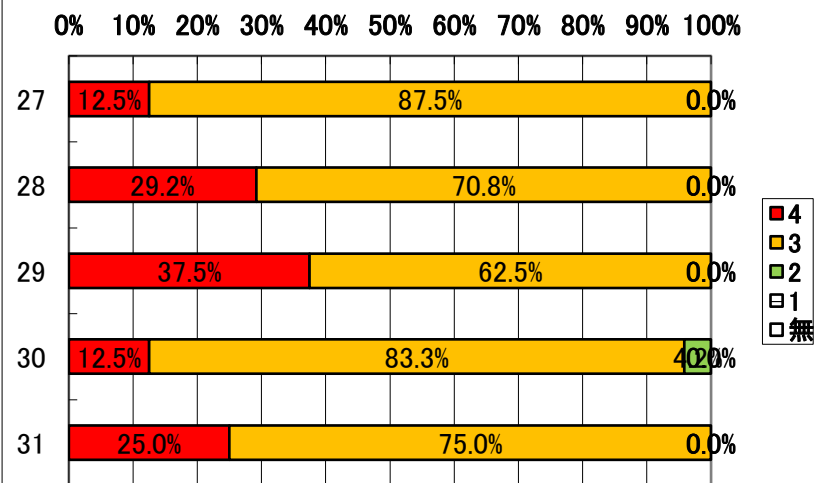
「教育課程」の項目に関しては、【No.17:年間行事・月行事は適切である】は肯定評価が昨年度78%という低い評価だったが、10%ほど増え88%になった。昨年度から少しずつ教務主任が変更や調整を重ね、過度の余剰時数の削減など改善した成果と考える。今年度は長期の工事等が入った関係で難しい部分が多々あった。次年度に向けて、さらにバランスのよい年間計画にしていきたい。時間配当や計画的な教育課程・日課時刻という部分では、週プロの作成(今年度は学年単位で決裁を回すようにした成果は大きい)や週案での時数確認などで、より意識を高く進めていく必要がある。

学習指導



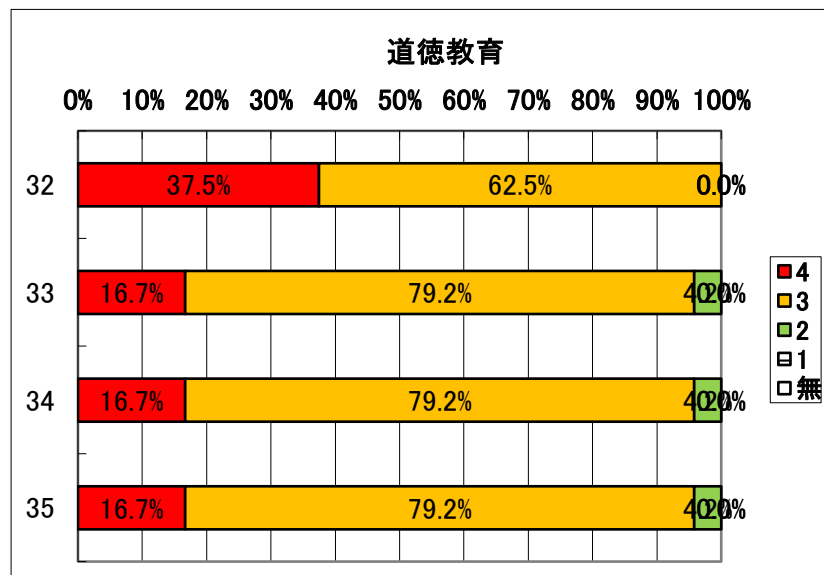
No.	評価項目
20	授業では、本時のねらいや学習問題が板書されている。
21	指導方法や授業形態を工夫し、「わかる授業」の実践に努めている。
22	教科備品やICT機器（パソコン・タブレット・書画カメラ等）の教材・教具を効果的に活用している。
23	体験的な学習活動を積極的に取り入れている。（実験・観察・栽培・自然体験・科学的体験等）
24	問題解決学習を積極的に取り入れている。
25	基礎基本の内容を明らかにし、その内容の定着に努めている。
26	児童の意欲を高める評価活動を工夫している。（授業・その他の教育活動等）
「学習指導」の項目に関しては、おおむね高評価（肯定評価90%以上）であった。7つの項目のうち、【No.24：問題解決学習を積極的に取り入れている。】が低い評価となった。一方、昨年度やや低い評価だった【No.23：体験的な学習活動を積極的に取り入れている。】の項目の肯定評価が増えた。今後も体験的な学習活動は積極的に取り入れていきたい。【No.20 No.21】については、「4：よくあてはまる」が少なくとも過半数を超えてほしい項目である。	

健康体力 安全教育



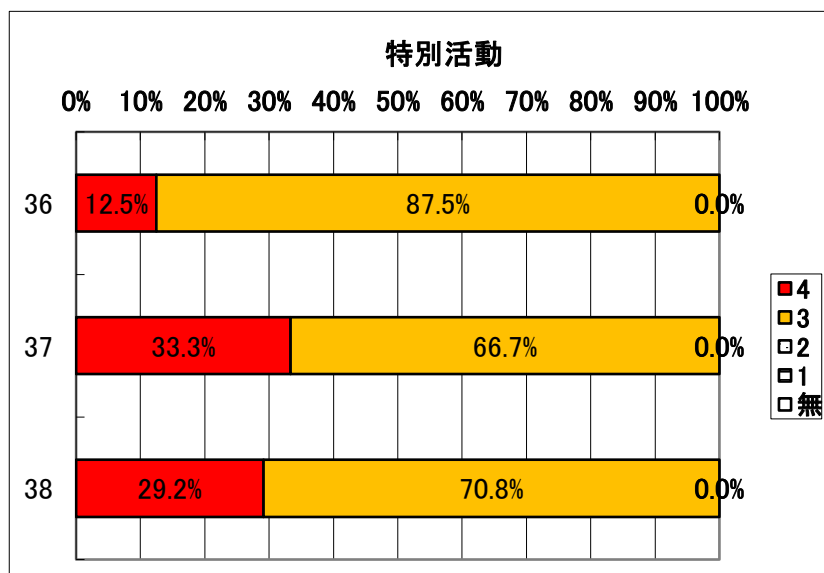
No.	評価項目
27	体育の授業を大切にし、児童に自主的な運動習慣を身につけさせ、体力向上を図っている。
28	登下校の児童の安全確保のために学級や学校全体で指導の工夫をしている。
29	健康や校内の安全に気をつけて生活するよう、指導を徹底している。
30	災害や不審者対応訓練は適切に行われ、児童に危機対応が身についている。
31	望ましい食習慣の育成に努めている。

「健康体力・安全教育」の項目に関しては、高評価（肯定評価95%以上）であった。各学級・学年で児童への安全配慮や指導ができていると思われる。災害や不審者対応についても日常の中での被災した地域や不審者ニュースを目にすることで、自分たちの生活でも気を付けなくてはならないと危機意識が高まっている。静かな廊下・階段歩行や教室内での過ごし方の注意喚起など、未然の事故防止のためにできることはまだまだあるので、校内において安全指導が徹底できるよう次年度も継続していく。



No.	評価項目
32	年間指導計画に即して実施し、授業時数を確保している。
33	道徳性の育成に資する体験活動を取り入れた指導の工夫をしている。
34	資料や指導形態を工夫し、児童の心を動かす授業を実践している。
35	教育活動全体を通して、心を育てる道徳教育を実践している。

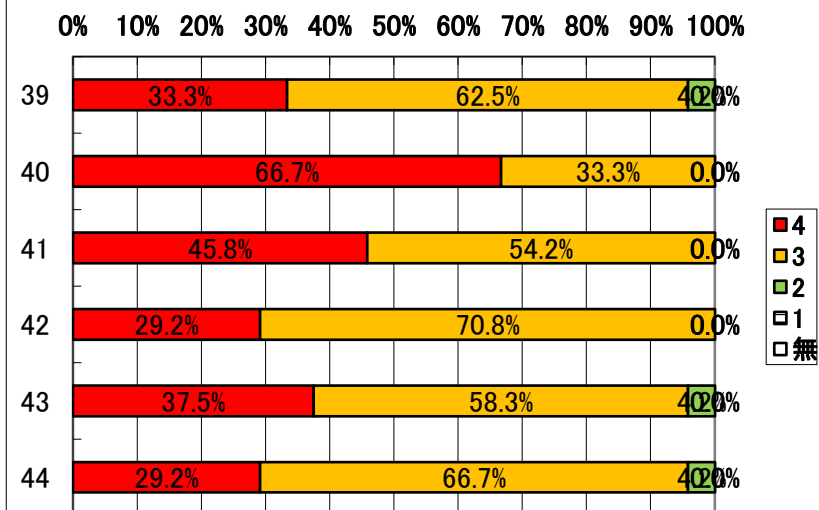
「道徳教育」の項目に関しては、高い評価(肯定評価95%以上)となったが、「4:よくあてはまる」という回答は少なかった。すべての学級において年間1回の授業展開を保護者に公開するとともに、学級経営でしっかりと心を耕す学習を進めていくことが大切である。若年層研修においても講師を招いた道徳の授業を展開することで、皆で道徳的スキルの向上を目指し、学級経営の中でも生かしていく。道徳教育の教材がマンネリ化してきたため、新しい題材や教具づくりを進めることで、より本校児童の実態に合った学習の工夫をしていきたい。



No.	評価項目
36	集団の一員としての自覚を深め、自主的・実践的な態度を育てる活動を意図的、計画的に進めている。
37	行事への取り組みによって、集団の質が高められている。
38	児童に達成感や成就感を味わわせるよう指導・評価を工夫している。

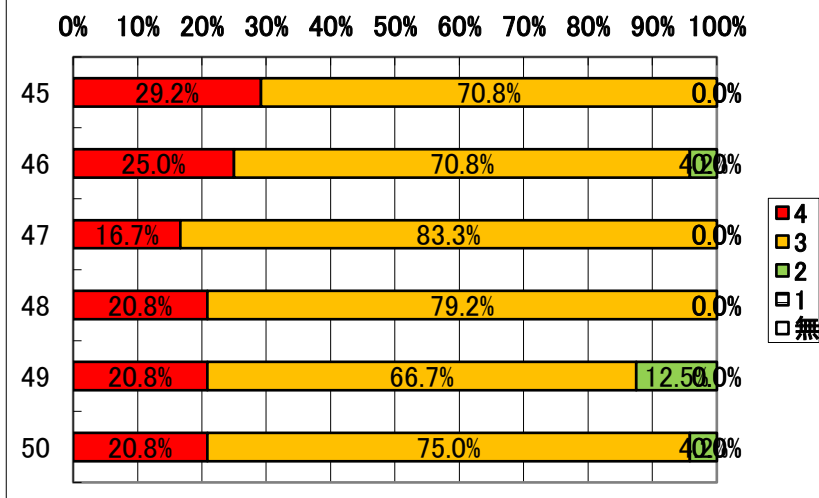
「特別活動」の項目に関しては、すべてが肯定評価100%であった。学校行事をコロナ禍以前と同じように取り組めるようになったことが高評価に結びついていると考える。働き方改革のうえで、行事の精選は大事なことであるが、教育効果が大きいものは取り組む価値がある。私たちにとって苦労が大きいものが、達成感ややりがいにも通じている。子供たちの取り組み具合や完成度など、目に見える成長があったことが大きな要因である。特に、【No.37:行事への取り組みによって集団の質が高められている】の評価が最も高く、行事に取り組むことで多くの得るものを実感できていることがうかがえる。今後も、自主的・実践的な態度をさまざまな機会を通して育てていきたい。

生徒指導 特別支援

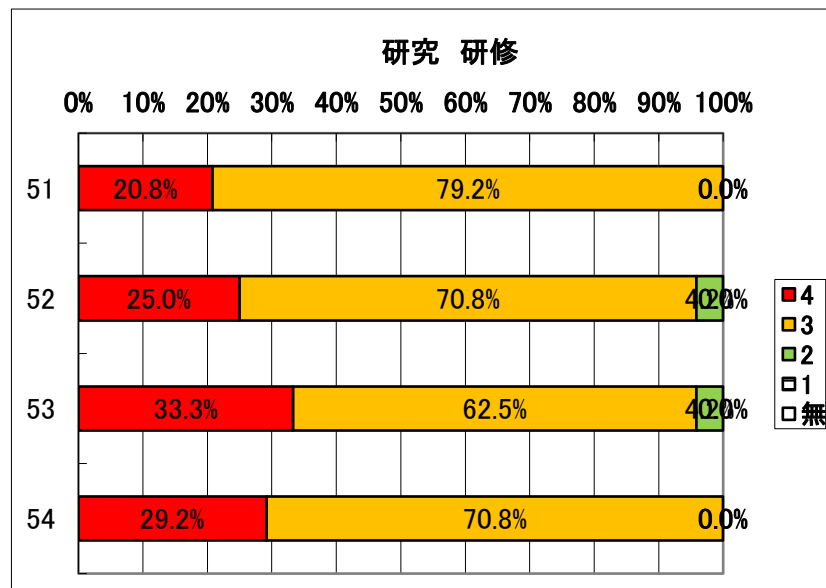


No.	評価項目
39	全職員が指導事項を検討・理解し、協力して指導にあたっている。
40	「いじめを許さない。」という気持ちで、日頃から児童の指導にあたっている。
41	必要な情報は、学年内や全職員間で共有化されている。
42	児童理解を深め、一人一人への対応や指導が適切に行われている。
43	特別支援を要する児童に対して、必要に応じて校内体制がとられている。
44	特別支援を要する児童に対して、必要に応じて家庭や関係機関との連携・協力・支援要請を行っている。
「生徒指導 特別支援」の項目に関しては、ほぼ高評価(肯定評価95%以上)であった。6つの項目のうち、【No.40:「いじめを許さない」という気持ちで日頃から児童の指導にあたっている】の項目が際立って高く、「よくあてはまる」評価が7割弱となっている。このことは「重点事項」の【No.7:いじめの早期発見・早期解決に努めている】の結果とも重なる内容であり、学校職員全体が、いじめ撲滅へ意識を高く持っていることの表れであると考ええる。また、【No.41】【No.42】の2つの項目は、生徒指導・特別支援において大切な観点であり、肯定評価100%という結果は望ましい。引き続き児童理解を深め、慎重に関係機関との連携を図り、多くの目で児童支援を行っていきたい。	

学習環境

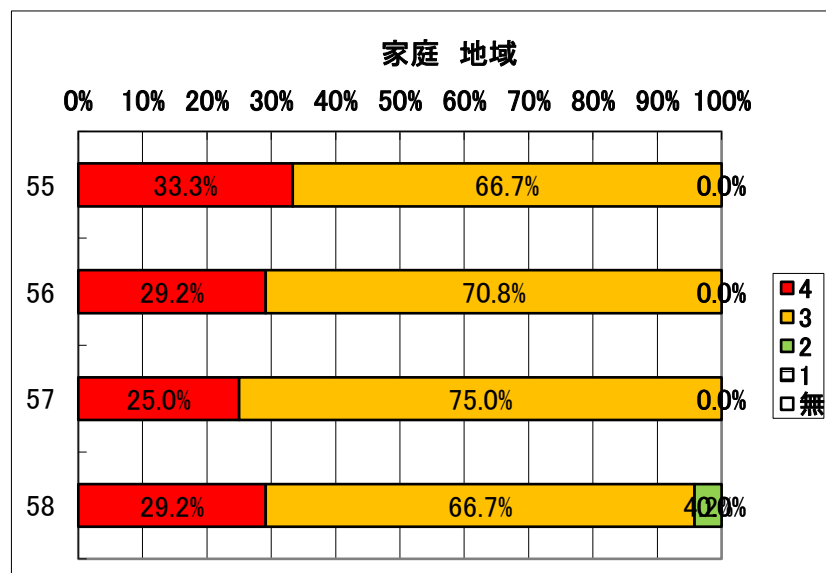


No.	評価項目
45	教職員や児童の言葉遣い、掲示板など言語環境に配慮されている。
46	明るく、落ち着いた雰囲気の中で学習ができるよう、教室環境が整備されている。
47	教室が一人一人の児童にとって、心地よい居場所となっている。
48	校舎内外の美化環境が整備されている。
49	各教科の備品や教材教具が十分に準備されている。
50	施設設備の管理が的確になされている。
「学習環境」の項目に関しては、1つを除いて高評価(肯定評価95%以上)であった。改善すべき項目は【No.49:各教科の備品や教材教具が十分に準備されている】である。「学習環境」を左右する大切な項目にもかかわらず、「あまりあてはまらない」が12%と多い。各教科領域部会が中心となって、予算を有効に使いながら計画的に整備を進めていく必要がある。ICT機器の利活用も視野に入れ、先進資料や情報の収集も積極的に行っていききたい。また、【No.46】の項目にあるように、各教室を学習しやすい環境としての視点で見直していかなければならない。	



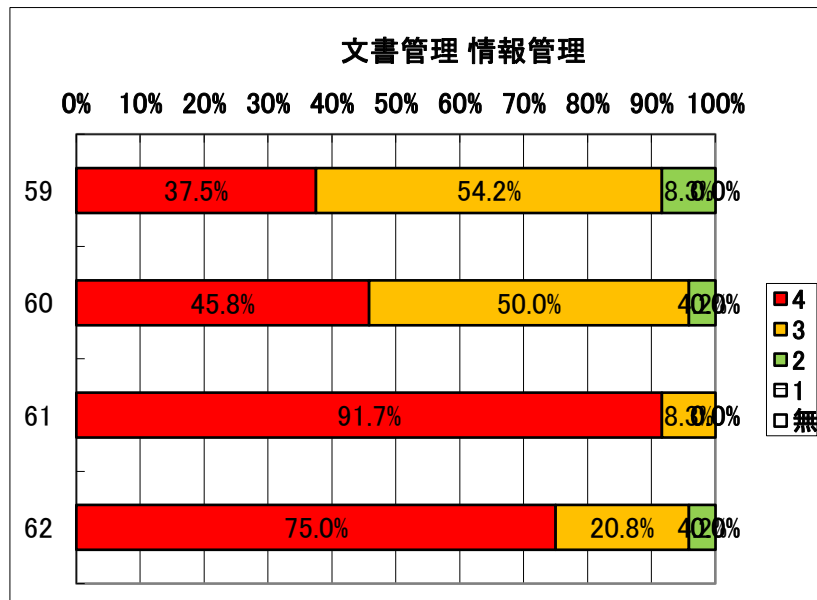
No.	評 価 項 目
51	校内研究は計画的に進められている。
52	研究・研修により授業力が高まり、授業が改善されている。
53	自己研修に積極的に取り組み、その成果を授業等にかかしている。
54	校内研修は、効果的に企画・運営されている。

「研究 研修」の項目に関しては、おおむね高評価(肯定評価95%以上)であった。校内研修や研究は計画的に進められていて、その授業に向かって学年でスキルアップへとつなげられているが、普段の授業の中では、あまり授業改善できていないと感じている職員もいる。研究・研修は、日々の実践に直結するものであるため、校内研究を次年度以降も計画的に進めていくとともに、県や市が開催する希望研修(夏季休業中)の受講も1つの方法となる。また、日々の授業中に積極的に相互の授業参観等が進められるようにしたり、職員の得意分野を生かして校内講師として研修の機会を設けたりするなどして、力量を高めていけるよう配慮したい。



No.	評 価 項 目
55	保護者や地域住民に対し、学校の情報発信が十分に行われている。
56	学級経営方針や学習指導方法等について、保護者の理解を得よう努めている。
57	家庭との連携を密にしている。
58	PTA(学級の保護者)とより良い関係が築かれている。

「家庭 地域」の項目に関しては、1つの項目を除いて肯定評価100%であった。
【No.55:学校の情報発信は十分か】に関連して、途中、学年だよりの定期発行を中止したが毎週の週プロや学級通信なども含め、保護者評価【学校は情報をわかりやすく伝えているか】の「よくあてはまる」の回答が50%であったことから学校側からの発信は伝わっているものとする。一方で、情報提供の不十分さを感じる保護者の声もある。家庭・地域の理解や協力なしでは学校教育は成り立たないので、今後も、周知の仕方や保護者への伝え方などはより工夫していく必要がある。開かれた学校づくりを目指すために、引き続き家庭地域との連携を図っていきたい。



No.	評 価 項 目
59	公文書の適切な管理及びファイリングを行い、必要な文書をすぐに取り出せるようにしている。
60	諸表簿の記入・点検・整理等が適切に行われている。
61	Yubiキーは必ず金庫の収納箱に入れるなど適切に管理している。
62	個人情報の管理については適切に行っている。

「文書管理 情報管理」の項目に関しては、他の項目に比べて「よくあてはまる」の回答が目立って大きな割合を占めている。ただし、このカテゴリーは、4項目ともに最高評価にならなくてはいけない分野である。【No.60: 諸表簿の記入・点検・整理等が適切に行われている】の「よくあてはまる」評価が5割に満たないことは今後の課題である。また、厳しい言い方にはなるが、【No.61: Yubiキーは必ず金庫の収納箱に入れるなど適切に管理している】【No.62: 個人情報の管理については適切に行っている】の2項目については、100%でなければならない項目でもある。社会人としての基本・不祥事防止の観点からも、「文書管理 情報管理」については次年度以降も十分に認識を高めていきたい。